

- ・ 発熱、風邪症状、下痢 気分の不良のある方は院内に入らず下記にTELして頂き車でお待ちください。TEL:0799-62-5566「玄関にポスター掲示」  
上記の患者様の診察時は、発熱セットを持参し医師・看護師・医療事務の3人同行(院内トリアージ実施)。  
駐車場の車の中で問診、診察、聴診を行い投薬、会計を行い、処方せんを薬局に届け薬剤師が車に出向いて服薬指導。  
同行の医師・看護師・医療事務はサージカルマスク・手袋・メガネ(ゴーグル)・ガウンを装着する。雨天時は屋根付き駐車場または、屋根付き通路の風上側を使用して、専用車椅子と発熱診察セットを持参して診察。インフルキットは使用せず臨床診断で。

#### 【発熱セット】

- ①問診票 ②手袋 ③マスク ④体温計 ⑤アルコール綿花 ⑥アルコールジェル ⑦採血セット(5ml 注射器、スピッツ白・赤・グレー合計3本、翼状針、紙テープ、シヨットパッチ) ⑧懐中電灯 ⑨ボールペン ⑩メガネ、ゴーグル ⑪ゴミ袋 ⑫新型コロナウイルス相談センターTEL番号案内用紙(患者様へ渡す)→保健所と連携・情報交換→必要なら淡路医療センター救急外来と連携 ⑬電話での検査結果問い合わせ用紙 ⑭院内トリアージ実施説明 ⑮防護衣代用品(レインコートなど) ⑯自動血圧計

#### 【院内感染防止対策】

- ・ 感染防止の為、現在はネブライザーによる治療を休止。インフル・ストレップA検査を休止。  
超音波ネブライザーは薬液をエアゾル化し病巣まで到達させます。薬液は微生物汚染を受けるとエアロゾルと共に微生物を噴出し感染を広げる原因になり、ネブライザーがコロナウイルス伝染させる原因とは言われておりませんが総合的に判断し休止しています。
- ・ 禁煙外来での呼気CO測定は当面は休止します。
- ・ エコー検査の際にプローブをアルコール綿花で拭いてから行う。→業者確認をしたところ不要と。従来通り濡らしたガーゼで可(神戸大、淡路医療センター確認済み)
- ・ 日々の業務では、滅菌切れがないか毎日点検、診察室の窓を開けて換気  
換気扇(1診察室、2診察室、点滴室、事務室)※下記は冷房使用のため定期的(臨機応変)行う。  
玄関ドアは手動の為、ドアノブを多くの方が触れるため開放。(強風、雨の時は閉める。)
- ・ パソコンのキーボードは適宜アルコール綿で消毒可(MCシステム森田氏確認済み)
- ・ 当院としては、玄関ドア、窓の解放、換気扇、サージカルマスク、アルコール消毒、検温、昼休みのラジオ体操、発熱患者の連絡要請ポスターを配置。該当者の電話に院長が直接対応している。  
院内検査のスモーカーライザー、肺活量、ピークフローメーター、ネブライザー等は当面中止。  
船員健診肺機能検査は、当面の間中止。記録には神戸運輸管理部 海上安全環境部

船員労働環境 海技資格科より「新型コロナウイルス感染拡大防止の為検査未実施」記載あれば良いことを確認済。

- ・ 往診時、訪問前後で患者ごとに手指消毒。患者に分泌物を認めた場合は患家手洗い、神戸大学医師とも話し合っただけで感染防御対策を4/22より開始し、手順を統一した(別紙:外勤コロナ対策)。
- ・ ヘルパー、訪問看護訪問看護、訪問リハビリ、ケアマネ訪問についても手順を統一した(別紙:外勤コロナ対策)。
- ・ ウィルス対策だけでなく、患者さんの不安・職員のメンタルヘルス・差別や偏見対策についても掲示板での情報提供や院内研修(個人情報の取扱い)を行った。
- ・ 診察時間終了後に看護スタッフが院内の手すり・ドアノブ等を消毒。尚、清掃委託業者が毎朝院内及び駐車場を清掃。駐車場通路の手すりも消毒。
- ・ トイレの温風乾燥は飛沫を発生するので中止し、ペーパータオルを設置。
- ・ 事業所健診は6/1より再開し、以下について事業所に協力を要請した。
  - ① 出勤前の体温測定で異常のあった人、体調不良者は受付で先に申し出る。
  - ② 健診受診者はマスクを着用して来院する。
  - ③ 密集しないように時間をずらして予約をとる。
  - ④ 健診終了後、視力計聴力計など受診者の接触部分を消毒で拭きとる。
- ・ 医院入り口にアルコールジェル消毒液を配置し、手指消毒に協力いただく。待合室の雑誌は複数の人が手にするため「今日の健康」・「アエラ」・「新聞」以外は当面待合室から除去。
- ・ 診察の24時間予約システム「ドクターキューブ」を活用して、待合室を密集・密着しないように工夫した。
- ・ 夏期の換気については、冷房を使用するため時間を決めて1時間に5～10分換気。各部屋の看護師が窓の開閉を行い、待合室は医療事務が自動ドアを開放した。介護事務もケアマネージャーが窓の開閉を行った。
- ・ 当院の受付は、以前よりオープンカウンターではなく全面ガラス張り構造で飛沫対策が行われており、受付内外にアルコールジェルを配置し、手指消毒を呼びかけた。受付にマスクを忘れた人に渡すマスクを用意した。院内にサージカルマスクと消毒用エタノールを備蓄した。
- ・ オンライン診療についても体制を整えて近畿厚生局に届出し、院内で運用の研修を行った。
- ・ クルーズ船の感染拡大の検証で重要視された、トイレの床のモップによる定時消毒を行うと共に、枕カバーを診察で使用した場合はその都度交換し、感染対策とした。
- ・ 当院ホームページにも「曾山医院の間背予防対策と衛生管理『かかりつけ患者様の安心のために』」と題してこれまでの内容を掲載。